

畜産系の汚濁負荷量は、現況と同様人為汚濁負荷量の全体からみるとその占める割合は小さい。しかし、畜産振興が予想される栗原西部、大崎東部、仙南西部などの河川では増加の傾向がみられる。

海域の単純将来予測汚濁負荷量は、河川と同様の傾向がみられ、生活系の汚濁負荷量の伸びに比較して工場・事業場系の伸びが著しく、その汚濁負荷量も大きくなっている。

一方、自然汚濁負荷量については、その発生要因に係る現況の土地利用形態が余り変わらないものとみられることから、その汚濁負荷量は現況と同じとみられる。

(2) 計画将来予測汚濁負荷量

河川の計画将来予測汚濁負荷量を各水域の環境基準点ごとにみると、人為汚濁負荷量のうち、生活系と工場・事業場系については下水道整備計画の進捗度合によって異なるが、大巾に減少する。とりわけ、生活系の汚濁負荷量の削減が著しいことから、人為汚濁負荷量に占める工場・事業場系の汚濁負荷量の割合が相対的に高まる結果となる。

海域の計画将来予測汚濁負荷量は、下水道整備計画のある気仙沼湾、万石浦、松島湾の3海域において、直接流入する生活系、工場・事業場系及び流入河川からの汚濁負荷量はいずれも相当削減されるものと予測される。

なお、別に添付している「水質汚濁物質排出量予測分布図」は、ひとつの予測結果を示したものであり、昭和65年度において容認される姿を示したのではなく、また、本計画により今後行われる環境管理の結果を示したものではない。

将来汚濁負荷量

単位 ka/日

水 域 名	基 準 点 名	類 型	人 為 汚 濁 負 荷 量				自然汚濁 負 荷 量
			生活系	工 場 ・ 事業場系	畜産系	計	
北 上 川 下 流	登 米	A	362	307	15	684	191
旧 北 上 川 上 流	神 取 橋	A	1,634	527	216	2,377	902
" 下 流	門 脇	B	4,327	8,652	62	13,041	393
			3,092	4,038	62	7,192	
迫川上流(迫 川)	花山ダム流入地点	AA	24	33	44	101	232
" (二 迫 川)	中 山 橋	AA	36	8	11	55	108

水 域 名
迫川上流(三迫川)
迫 川 中 流
" 下 流
江 合 川 上 流
" 中 流
" 下 流
定 川
出 来 川
古 川 市 内 河 川
鳴 瀬 川 上 流
" 中 流
" 下 流
吉 田 川 上 流
" (善川)
" 下 流
高 城 川
名取川上流(太郎川)
" (北 川)
" (前 川)
"
名 取 川 中 流
" 下 流